

幡中だより

あやめ

～since 1999～

第298号

令和6年3月5日
瀬戸市立幡山中学校



「群青」に思いをこめて

瀬戸市立幡山中学校長 梶田 明敬

先月、29日に卒業生を送る会が開催されました。コロナ禍で歌うことが制限され、中学校恒例の学年合唱も長らく中止されていましたが、今年度は5年ぶりに学年合唱に挑戦しました。しかし、これまでに一度も学年合唱に取り組んだ経験がない子ども達です。大勢で息を合わせるタイミングやお互いの声を聴きあう感覚など、十分な練習時間がない中ではありましたが、努力を積み重ねました。

そして迎えた当日、生徒会役員の司会進行で、思い出ビデオの上映や生徒会企画のクイズなど、前半は笑顔いっぱいの中での和やかな時間を過ごすことができました。休憩をはさんで、いよいよ後半、各学年の発表です。

トップバッターは1組のみなさん。先輩への思いを言葉にのせ、しっかりと伝えることができました。引き続き、1年生の学年合唱です。合唱曲の定番である、アクアマリンの「COSMOS」を歌いました。1年生らしいフレッシュな歌声に皆が元気をもらいました。そして、2年生。中島みゆきの「糸」を歌います。すっかり大人びた柔らかく響きのある声で、出会いの運命や奇跡を体育館中に響かせました。



最後は3年生。東日本大震災によって離ればなれになってしまった仲間を思って子ども達がつぶやいた言葉を、中学校音楽科の教員がまとめて、曲をつけた「群青」という合唱曲です。この思いのこめられた歌詞や曲に魅せられ、全国の中学校の合唱コンクールや卒業式で歌われるようになりました。

震災で避難のために離ればなれになったクラスメート。その友達のことを思いながら、大きな日本地図に仲間の顔写真を貼り付け、「遠いね」「でもこの地図の上の空はつながっているね」とつぶやく残された中学生。彼らの気持ちを、そばに寄り添っていた一人の教師が歌にして伝える。この素敵なたながりを見事に幡中の3年生は表現し、体育館の空気を一瞬にして変え、周囲を感動の渦に巻き込んでしまいました。



「今旅立つ日 見える景色は違って

遠い場所で 君も同じ空

きっと見上げてるはず」

(群青の歌詞より)

6日は卒業式、3年生にとって最後の中学校生活となります。このよき日に、次はこれまでお世話になった保護者のみなさんの前で、この「群青」を歌います。送る会の時よりもいっそう気持ちが高まり、感極まる合唱になることでしょう。その場に居合わせることができる幸せを今からドキドキして待っています。

(皆さんがこのあやめをご覧になれる頃は、もう卒業式が終わっている頃かもしれません。思い出に残るすばらしい式になりますように…)

1年 ボッチャを楽しもう講習会

2月6日(火)

NHKでパラスポーツ解説者をする、日本福祉大学教授の藤田紀昭先生と大学生の木村さんをお招きして「ボッチャ競技を楽しもう!」講演会を行いました。誰にでもでき「障がいに関係なく共存しつつ、お互いに認め合う気持ちが高まるとよいです」というお話を聞きました。そして、仲間とともにボッチャを楽しむ姿が見られました。



卒業生を送る会

2月29日(木)

テーマ「一心 ～未来へつなぐ架け橋を～」

吹奏楽部の演奏に合わせて3年生が入場し、卒業生を送る会が始まりました。在校生全員で制作した、モザイク壁画の披露。3年生はもちろん、全体像を初めて見る1、2年生からも歓声が上がりました。思い出スライドショーでは、3年間の学校生活を振り返り、お世話になった先生方からの素敵なメッセージ動画に心が温くなりました。その後、生徒会企画クイズ、1組の3年生へのメッセージ、1・2年生の学年合唱発表がありました。そして、それらに応える3年生の合唱発表、卒業式で使うコサージュ贈呈まで、5年ぶりに体育館で全学年揃って合唱の雰囲気を感じ取ることができました。生徒会役員が企画運営をし、心のこもった会になりました。

